

## 山村再生担い手づくり事例集 2013(平成25)年度取材団体一覧

### ●長野県

根羽村(紹介文担当:南木)

#### 根羽村森林組合

「親が植え、子が育て、孫が伐る」  
矢作川上流域・水源の森を育て、良質の「根羽スギ」を下流のあなたに届けたい。  
地域最大の資源である 森林資源を活かしたトータル林業の取り組み。  
間伐体験等の木育活動の推進。JAS規格取得による安定した品質。注文に応じた部材の供給。  
持続可能な林業立村の一翼をになって。

話を聞く方:今村豊氏(参事)

#### ねば杉っこ餅

村の元気なお母さん。畑から食卓まで、自主自立で出来た、6次産業化と地産地消。  
自分の家の畑で採れた、季節毎の食材を生かし、各種の餅やカラスミ、田舎の家庭的な食事を様々なイベント等で、提供しています。

話を聞く方:原小夜子氏、鈴木明子氏

#### 根羽村猟友会

山遊びの達人が集う。有害獣対策からの、特産品を活かしたジビエ食材の安価な提供まで。  
ネバーランドを始めとした地元商工会や、大学との連携等で、安価で美味しいジビエ料理の開発、普及に取り組んでいます。  
今日も村のおじいさんが生き活きと山で遊んでいます。

話を聞く方:西尾竹二氏(会計)

### ●岐阜県

恵那市(紹介文担当:丹羽)

#### 恵南森林組合

現場作業員ひとりひとりのプロ意識がほかの森林組合と比べて出色。  
ドイツフォレスターを毎年招請したり、架線、高所特殊伐採など進取の気風旺盛。  
カッコイイユニフォームやTシャツ、小物作りなどにもこだわり。

話を聞く方:大島徳雄氏(専務)

#### NPO法人東濃・森林づくりの会

本来従属か競争関係にある素材業者と森林組合の協働でレベルアップを目指す日本でも珍しい集団。それを支えるのは地域愛と林業への誇り、使命感。  
ミッションが明確。

話を聞く方:三宅氏(串原林業)

#### NPO法人奥矢作森林塾

放置林の整備から始まったNPOが山村の緊急課題に真正面から取り組んだ。  
しらみつぶしの空家調査、本格リフォーム塾、定住対策、地域おこし協力隊、1年間で23組の定住を世話した。  
徹底的に世話を焼き地元とよそ者の信頼を得ることが全てか。

話を聞く方:大島光利理事長

#### NPO法人福寿の里自然倶楽部

原生林ツアーから森林環境教育まで、地元の豊かな資源とマンパワーを最大限に活用して地域の誇りを呼び覚ましている。

話を聞く方:伊藤代表

●愛知県

豊田市（紹介文担当：洲崎、\*印は長澤）

矢作川水系森林ボランティア協議会\*

矢作川流域で活動する森林ボランティアグループ（現在14団体）が集まって作った協議会で、「山の手入れを知らない素人山主さん」と森林ボランティアが交流・学習することで、「山仕事の心と技と楽しさ」を伝えることをめざしています。矢作川森の研究者グループとともに人工林が荒廃している現状を科学と五感で明らかにする市民参加型の人工林調査イベント「森の健康診断」を主催しており、講習会や合宿なども行っています。

話を聞く方：丹羽健司代表

とよた森林学校+OB会

市町村合併により森林率が約7割になった豊田市は、森林や林業について学べる多数の講座で構成されたとよた森林学校を2006年に開校しました。こうした取組は市町村としては全国で初めてです。一人でも多くの市民が森林や林業に親しむことと、豊田市内の森林、特に人工林の保全と活用を推進することがねらいです。林業・森林活動に関わる人材育成コースの講座と、広く市民を対象とした森林・林業の理解者「森の応援団」育成コースの講座があり、豊田市民以外でも受講できます。OB会による自主活動も活発です。

話を聞く方：豊田市森林課北岡明彦主幹、山本薫久氏

とよた都市農山村交流ネットワーク

豊田市では、市内の3小学校で5年生を対象とした2泊3日の農山村体験を実施してきました。このセカンドスクール事業を受け入れてきた農山村の住民有志が集まって都市と農山村の交流について話し合い、2008年にとよた都市農山村交流ネットワークを創立しました。都市と農山村の交流事業、幹事会、農家力や連帯力をアップするための研修会、ホームページやニュースレターによる情報発信、都市部住民を農山村の仲間にする「山里学校」などを、いずれもほぼ毎月開催しています。

話を聞く方：山本薫久代表

豊森なりわい塾

「豊森」とは豊田市、トヨタ自動車、NPO法人地域の未来・支援センターの協働による、森林を活用した「人づくり」「地域づくり」「仕組みづくり」のプロジェクトです。多様な人材によって森を中心とした自然生態系の利用を軸とした地域循環型・持続型社会のしくみを作る「豊森モデル」の構築をめざしています。2年間の連続講座と各種実習、自主活動を通じ、山里で自立して暮らせて、山里の再生に寄与できる人材を育成しています。2013年4月から第3期を開講中です。

話を聞く方：中川恵子氏（スタッフ）

株式会社M-easy

2009年から豊田市旭地区で2年間実施された「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」では、全国から募集した若者10名が同地区に住んで、安全・安心な農産物の生産と流通に携わりました。この時指導にあたった株式会社M-easyはプロジェクト終了後も旭地区に残り、「みんなでつくってみんなで分ける野良仕事」「福蔵寺ご縁市」「まちといなかのご縁づくり田んぼ」「山村体験プログラム」「旭高原元気村食と農の体験プログラム」などの事業に取り組んでいます。

話を聞く方：戸田友介代表取締役社長

旭木の駅プロジェクト\*

間伐材などの残材を地域通貨に替えて流通させることで、森林保全、商店振興、山主の意識喚起など、多面的な効果が得られるプロジェクトです。参加者が木材を木の駅へ出荷すると、「モリ券」という地域通貨が支給され、これを地域の商店で使用することで地域活性化にもつながります。木材は業者が買い取り、チップや薪などとして利用されます。

話を聞く方：高山委員長

### 千年持続学校

若者の田舎への移住を阻んでいる要因として「住むところがない」「生業がない」「医療機関がない」「高等教育機関がない」の4つがあげられます。こうした問題に取り組むため2011年、千年持続学校の「住まい作り講座」が開講しました。大工の経験がない人々が集まり、手弁当で参加している建築士や大工らの指導を受けながら豊田市旭地区に家を建築しています。地元の人工林の木を伐り出すことから始まった家づくりは、2013年7月に建前を迎えました。

話を聞く方：高野雅夫実行委員長

### おむすび通貨

地域共同体の再生を目的として2010年に足助で生まれた「おむすび通貨」は、世界初の米本位制地域通貨です。有効期間内は提携する豊田・岡崎・名古屋等の100を超える地域密着型の事業所で支払いに使い、有効期間が切れると提携農家がお米に換えて食べられます。現在、円頓寺などの商店街でおむすび通貨を使った活性化の取組が進んでいます。また、こどもがおむすび通貨を稼いで使い合えるイベント「こども夢の商店街」が各地で開催され、大きな話題を呼んでいます。

話を聞く方：吉田大事務局長

### green maman

2007年に活動を開始したgreen mamanのメンバーは4人のお母さんで、「戦争のない平和な社会であってほしい」と願い、環境・平和・暮らし等の情報発信をしています。主な活動として、豊田市産の安心・安全にこだわった農産物や手づくり雑貨が売られる朝市の開催、水やエネルギー、食と農の問題、自然農や自然療法をテーマとした「暮らしの寺子屋塾」、味噌仕込みや保存食づくり、野菜・雑穀の料理教室を行う「mamanの台所」、米づくり等を行っています。

話を聞く方：宇角佳笑氏

### 農業法人みどりの里

みどりの里は2008年から、豊田市内で無農薬・無肥料の自然栽培により米、イチゴ、野菜を作っています。自然栽培は植物が本来持っている自然の力をひきだすため、生命力あふれる作物が育ちます。みどりの里が作った農産物は食の鮮度と安心・安全、生産者との顔の見えるつながりをモットーに豊田市内に展開している食品スーパー（株）やまのぶに卸されています。また、やまのぶとの協働による加工食品やスイーツの開発も進んでいます。

話を聞く方：野中慎吾代表

## 岡崎市（紹介文担当：沖）

### NPO法人中部猟踊会・三州マタギ屋

代表の日浅一さんは十数年前、山村集落の高齢化と温暖化による獣害の増加に直面し、対策の必要性を感じて、昔修業した技が地域のお役にたてばと考えて会を立ち上げられたそうです。しかし、農家は農作物に被害を与える野生生物の完全駆除を望むのに対して、猟師は野生動物を、山菜やキノコと同じように山の恵みとして考えています。また捕獲した動物は苦しませず命を奪うことや、命のやり取りをして肉を頂くのだから余すところなく美味しく頂くことを心がけています。そのための猟師料理や、鹿、猪肉の美味しい時期、鳥獣保護法の原点が縄文の狩猟に遡る話や鹿・猪の生態など、伺っていると時を忘れます。豊富な体験と技のお話は、『マタギの聞き書き』として本に残したい気持ちに駆られます。

話を聞く方：日浅一代表

### 岡崎森林組合

40数年前、岡崎・額田地域には5つの森林組合と模範造林組合がありました。その頃は宮崎地域に入ると木の香りが漂い、製材所をはじめ町は活気に満ちていました。しかしいつの間にか森林組合は額田と岡崎に1組合ずつになって、平成20年には、合併によって岡崎森林組合1つになってしまいました。岡崎森林組合は正組合員・准組合員併せて3000余人、森林面積23,300haの大所帯です。輸入材に押され国産材にとってまだ冬の時代が続いていますが、今年から流域材利用に補助金が付くようになりましたし、少しずつですが公共施設や民間の建物でも流域材の利用が始まっています。

話を聞く方：眞木宏哉組合長

おおだの森保護事業者会（山留舞会—やるまいかい）

『額田富士』と崇拝されてきた山が、時代の変化の中で人が立ち入ることができないほど荒廃してしまったことに心を痛めた人びとが、「水を生みだす森を元気にすることが人間を元気にしてくれるのではないか」と、山桜やもみじを育成し植林をし、間伐や下草刈り、登山道の整備を続けておられます。この作業には、地元住民だけでなく地元住民以外の人びとや小中学生の参加も募っています。作業の後は、手作りの料理を囲んで親睦を深める機会もあるようです。経済的な見返りはないけれど地域の心の支えになっているようです。

話を聞く方：浅井会長

じさんじょの会

古民家「萱葺の家」を守りながら活用し、田舎のよさを多くの都会の人に伝え、交流を図ることをめざしています。田舎まるごと体験（そば、こんにやくづくり、布ぞうり体験）、農林業体験（田植え、稲刈り、脱穀、草刈り、間伐等を昔ながらの手作業で）、都市との交流（バーベキュー、芋煮会、餅つき、蛍を見るイベント、ジャズライブ）、また昔ながらの結婚式を行える場も提供しています。

話を聞く方：荻野正彦氏